

第 23 回 縮小社会研究会の報告

36名の参加。講演はすばらしく、多くの質問がでた。懇親会でも議論がなされた。会場がすばらしかった。

時：2014年7月26日、14-17時

所：東京小石川後楽園、涵徳亭

講演会（非会員の参加も歓迎します。会費：会員は無料、非会員は500円）

14：00-14：30 「縮小社会研究会の到達点とこれからの目標」 松久寛（当会会長）

2008年に縮小社会研究会を設立し、5年間で23回の研究会を開催してきた。そこでは、農業、経済、環境、工業、資源、倫理、医療など多方面の議論がなされた。そして、縮小の必然性のみならず、縮小によって幸せになれるという希望とこれからなさねばならない課題が見えてきた。

14：30-15：00 「協同労働という働き方とワーカーズコープ」

松沢常夫（日本労協新聞編集長）

利潤目的に従属させられる仕事、労働ではなく、生活と地域のために、市民自身が主体者となり協同してつくりだすものへ「協同労働」という働き方が生まれた経緯、実際、可能性、そして課題。

15：00-16：30 「信用金庫の脱原発宣言」 吉原毅（城南信用金庫理事長）

現代社会は、貧富の格差、いじめや自殺、孤独など、「お金の弊害」が蔓延しています。原発問題もまさにお金による弊害です。私たち信用金庫は、「地域を守り、地域に貢献する」という公共的使命を持った金融機関として「原発に頼らない安心できる社会」の実現をめざします。

16：30-17：00 質疑、討論

懇親会：17時15分-19時、 所：涵徳亭、

